



今月のFujimist

芽生えた「人のために」との想い

「小学3年生から高校3年生まで野球をやっていました。夢は、再びピッチャーとしてマウンドに上がること」と語るのは、市内在住で富士見市障害者施策推進協議会の委員を務める細貝龍生さん。

今から3年前の11月だった。当時大学3年生でアルバイトから帰宅する途中で交通事故に遭った。目が覚めると、どこか分からない病院のベッドの上において、年が変わっていた。意識がはっきりと戻ったのは事故の翌年3月のことだった。3か所の病院への入院と障がい者施設での自立訓練の末、自宅に戻った時には事故から1年10か月が経過していた。今も体には脊髄損傷による体幹、両下肢および左上肢のみと、脳挫傷による高次脳機能障害が残り、電動車椅子を使用した生活を送る。

交通事故に遭うまでは、地域活動に参加したことがなかった細貝さんだが、「自身の経験を伝えることが誰かのためになれば」との想いから、広報で募集していた同協議

細貝 龍生^{りゅうき}さん (富士見市障害者施策推進協議会委員)

☎ 秘書広報課 ☎049-256-9535

会委員に応募し、現在は、委員として障がい者施策推進のため活動を行っている。

困難に打ち勝つ強い意志が導く未来

電動車椅子での生活を決して悲観せず、地域活動に励む細貝さんは、「車椅子を使用するようになったことで世の中にはたくさんのバリア(障壁)があることに気が付きました。私の経験を広く伝えることでそれらのバリアをなくし、誰もが不自由なく暮らせるまちづくりを目指したいです」と前向きに、そして、力強く意気込む。現在は、あいサポーター研修で自身の経験を受講者に伝える当事者メッセンジャーの養成研修を修了し、実践を今か今かと待っている。

「事故で休学していた期間もありましたが、今年9月に大学を卒業したので、次の目標は就職すること。自分らしく働ける場所を見つけたいです」と語る細貝さんの目は輝く。この先どんなピンチが待ち受けていようとも、壁を打ち破ってきた細貝さんの強い意志を宿した投球は、明るい未来へ真っすぐ進んでいく。

■市公式
ホームページ



■ SNS



LINE
Facebook
X(旧Twitter)
Instagram
YouTube



【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で



【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴



Fujimist募集

市内在住、富士見市出身の方などで活躍されている方を募集しています。自薦・他薦は問いません。



みんな笑顔☆ふじみ ☎ 049-251-2711(代)

富士見市

FAX 049-254-2000

〒354-8511

富士見市大字鶴馬1800-1



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。